



インターネットガバナンス おさらいと議論の背景

2005年12月7日 Internetweek2005
インターネットガバナンス 過去、現在、そして未来

(社)日本ネットワークインフォメーションセンター
IP分野担当理事 前村 昌紀
maem@nic.ad.jp



2005年のおさらい

WSISとWGIG

2005年は、WGIGの本格的検討が
WSISチュニス会合で結論付けられる一年

- WSIS – World Summit on the Information Society
 - ITU管轄の国連世界サミット <http://www.itu.int/wsis/>
 - デジタルデバイドや情報振興政策が主な議題だが、2003年12月のジュネーブ会合で、インターネットガバナンスに関する議論で紛糾
 - ITU/主権国家の権限が主張された
- WGIG – Working Group for Internet Governance
 - <http://www.wgig.org/>
 - 2005年11月 WSISチュニス会合までにインターネットガバナンス議論に関して一定の結論を出すべく召集された国連事務総長直轄の検討部会。
 - 2004年9月準備会合, 2004年11月メンバ決定, 初会合

Copyright © 2005 Japan Network Information Center. All rights reserved

WGIGの歩み

- 2004年9月 Open Consultation Session
 - WGIGのあり方を多方面から議論
- 2004年11月 第1回会合
 - インターネットガバナンスの定義と 이슈ーリスト作成
 - Zhaoペーパーとその反論
- 2005年2月 第2回会合
 - 이슈ーごとに 이슈ーペーパーを作成
- 2005年4月 第3回会合
 - 이슈ーペーパーの意見集約
- 2005年6月 第4回会合
 - 最終報告書の取りまとめ

Copyright © 2005 Japan Network Information Center. All rights reserved

結局WGIGでは何が起こったか

- インターネットガバナンス諸問題に関するIssue Papersの取りまとめ

- 取りまとめとパブリックコメント終了

良い整理ができた。今後の検討に寄与

- IPv6アドレス管理に関する議論

- ITU-TのHoulin ZHAO が、IPv6アドレスに関する現行RIRシステムに加え、ITU-主権国家による管理の併用を主張

特に何か起こる気配なし

- ICANNの統治に関する議論

- 監視する別組織が必要？ GACの権限強化？ 現状の米国法準拠，米国商務省契約による業務遂行をどう変えるのか

WSISチュニス会合直前までもつれた

Copyright © 2005 Japan Network Information Center. All rights reserved

WGIGイシューペーパー

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • 技術標準化 • 多言語ドメイン名 • ドメイン名とIPアドレスの管理 • ルートネームサーバシステムの管理 • 通信インフラ、ブロードバンドアクセスとNGN統合 • ピアリングと相互接続 • スпам • サイバーセキュリティ、サイバー犯罪 • ネットワーク・ITシステムのセキュリティ | <ul style="list-style-type: none"> • ユニバーサルアクセス • 社会的側面 • VoIP • Eコマース • 紛争解決 • 消費者・ユーザ保護とプライバシー • 違法コンテンツとアクセス制限 • 知的財産権 • 競争政策、自由化、規制 • 文化と言語の多様性 • 教育と能力開発 • 国家政策と規制 |
|---|---|

Copyright © 2005 Japan Network Information Center. All rights reserved

WSISチュニス会合での インターネットガバナンスに 関する決議

- チュニスコミットメント
 - 和訳 : http://www.soumu.go.jp/s-news/2005/051119_1.html#s1
- 国際連合管轄でインターネットガバナンス フォーラム(IGF)を設立し、マルチステークホルダーアプローチで最低5年間維持する

WGIG体制の発展的延長？

- ICANNに関する体制は、米国政府の関与を含めて全て当面現状のまま維持
 - 7月に米国が現状維持を主張して以来、EUの変節など政治的な動きが続き、決議案採択は前日夜半までに及んだ

先延ばし。

Copyright © 2005 Japan Network Information Center. All rights reserved

インターネットガバナンスの 歴史を振り返る

ガバナンス – governance

- ガバナンス＝「統治」「管理」
 - コーポレートガバナンスという。。
 - ルールを作り、ルールを守る
 - 投資家が適切な投資ができ、適切に配当される
 - 経営責任が定義され遂行される
 - 社員が貢献度に従って適切に処遇される
 - 効率的な指揮系統と適切な情報流通
 - 目的を達成するために必要なルールと、その作成執行のしくみ
- インターネットガバナンス
 - インターネットを構築・運営・利用する上で必要なルールと、その制定執行のしくみ

インターネット黎明期のガバナンス

- 作る人 = 動かす人 = 使う人
 - 使う人が作り、動かし、具合が悪ければ直す
 - 自助努力 相互扶助的な仕組み
 - コミュニティも小さい
 - 性善説が成り立ちやすい
- 自分たちのネットワークのルールは自分たちで作る

研究者コミュニティによる自助努力

インターネットを利用する上でのルール

IPアドレス・ドメイン名といった論理資源の分配に関する規則

通信プロトコルをはじめとする技術的な規格・規定

インターネットガバナンスの歴史 1995年まで

- 黎明の規格策定団体の構成 ~90年代前半まで
 - DARPAからの独立, IAB, IETF, ISOC
- レジストリの組織化と分化
 - IANA – Jon Postelの個人的な努力から組織化
 - もとはInterNICによるドメイン名・IPアドレス一括管理
 - countryNICs に対する ccTLD, IPアドレスの管理委譲
 - RIRs (1992~)
- ルーティングコーディネーションの高度化
 - BGPの導入, CIDR/BGP4の導入(日本では1995)

コミュニティの拡大

インターネットを利用する上でのルール

IPアドレス・ドメイン名といった
論理資源の分配に関する規則

通信プロトコルをはじめとする
技術的な規格・規定

インターネットガバナンスの歴史 1995—2000

- インターネットの爆発的拡がりと技術の進歩
 - 規格・規則策定は有効に機能し、追従し続ける
- ICANN設立に向けた動き (1996 ~ 2000)
 - IAHC (Internet International Ad Hoc Committee) によるキックオフ
 - ドメイン名(gTLD)のルール作りが最大の動機
 - 「インターネットガバナンス」というキーワードの出現
- ARINがInterNICから分離 (1997)

ネットワーク運営コミュニティの確立

インターネットを利用する上でのルール

IPアドレス・ドメイン名といった
論理資源の分配に関する規則

通信プロトコルをはじめとする
技術的な規格・規定

インターネットガバナンスの歴史 2000—2005

- インターネット利用を前提とした法律の改正
- スпамやウィルス, アタックの横行
- rootDNSサーバのエニキャスト技術による増設
- ICANN体制によるルールと仕組みづくり
 - ドメイン名政策- 公平競争, 紛争解決 が大きなテーマ
 - RIRsによるオープンでボトムアップな規則策定機構確立
- IETF Problem Statement – 問題点整理と改善努力
- WSISにおいてインターネットガバナンスに対する懸念が、途上国陣営から (2003/12)

インターネットが社会資本として認知

インターネットを利用する上でのルール

IPアドレス・ドメイン名といった論理資源の分配に関する規則

通信プロトコルをはじめとする技術的な規格・規定

インターネットガバナンスの歴史 まとめ

- ~ 1995 :技術規格と論理資源分配機構の整備
- ~ 2000: 規模拡大と追従, ドメイン名を中心に実社会のルールとのすり合わせ
- 2000 ~ :さらなる規模拡大, 問題の増加と対処, 社会資本として本格的な機構整備

インターネットの導入によって必要となる
実社会における
既存の社会規範やルール・法律の
変更・拡充

インターネットを利用する上でのルール

ネットワーク間の相互接続や
その総体としてのインターネット全体が
正常に機能するための仕組みや取り決め

IPアドレス・ドメイン名といった
論理資源の分配に関する規則

通信プロトコルをはじめとする
技術的な規格・規定

<p>インターネット社会のガバナンス</p> <p>行政・立法, 法律家, 政策研究家 国際機関・国際条約</p> <p>運営者と利用者との間の取り決め</p>	<p>インターネットの導入によって必要となる 実社会における 既存の社会規範やルール・法律の 変更 拡充</p> <p>インターネットを利用する上でのルール</p>
<p>二者間交渉とその連結, IETF/IEPG JANOG/NANOGを初めとするフォーラム</p> <p>ICANN, ccTLDs, Root-servers, NRO, RIRs, NIRs, LIRs</p> <p>IAB, IESG, IETF, W3C...</p> <p>インフラストラクチャのガバナンス</p>	<p>ネットワーク間の相互接続や その総体としてのインターネット全体が 正常に機能するための仕組みや取り決め</p> <p>IPアドレス・ドメイン名といった 論理資源の分配に関する規則</p> <p>通信プロトコルをはじめとする 技術的な規格 規定</p>

インターネットガバナンスの 現在と未来

金正勲曰く

(慶応大デジタルメディアコンテンツ統合研究機構助教授)

- **変容しつつあるインターネット・ガバナンス」**
 - 日経ネット時評2004年10月19日
<http://it.nikkei.co.jp/business/column/njh.aspx?ichiran=True&i=20041018s2000s2s2&page=2>
 - 初期はネットワーク研究者の同質なコミュニティ。緊密な人的ネットワークと信頼関係があり、絶対的信頼を得る限られた人間に権限を集中させて管理が可能であった。
 - インターネットは 開発当初の用途どおりに使われ続けている技術ではなく、時間の経過と共に様々な利害関係者により新しい意味を付与され、変更を加えられて今日の姿を形成するに至った複合的存在
 - 初期の標準化メカニズムは、「オープン」、「ボトムアップ」、「ボランティア」、「合意ベース」、「実行先、合意後」の5原則
 - 全プレイヤーの積極参加を前提にした制度を現実的に運営できるのが、利用者層が拡大した現在にあっては明らかに再考を要する。
 - インターネットの文化はここへ来て近代化を経験

Copyright © 2005 Japan Network Information Center. All rights reserved

チュニスアジェンダ第35項

- 35. 我々は、インターネットの管理には技術と公共政策の両方の問題が付随するため、すべての関係者と、関連する政府間機関並びに国際機関が関与しなければならないことを再確認する。この点に関し、次のような点が認識されている。
 - a) インターネットに関わる公共政策問題を取り扱う政策権限は、国家の主権であり、国家は、国際的なインターネット関連の公共政策問題に関する権利と責任を持つ。
 - b) 民間セクターはこれまで、技術と経済の両方の分野において、インターネットの発展に重要な役割を果たしており、今後も引き続き、このような役割を果たしていかなければならない。
 - c) 市民社会はこれまで、特に地域社会のレベルでインターネット問題に重要な役割を果たしており、今後も引き続き、このような役割を果たしていかなければならない。
 - d) 政府間機関はこれまで、インターネット関連の公共政策問題の調整を実現する役割を果たしており、今後も引き続き、このような役割を果たしていかなければならない。
 - e) 国際機関はこれまで、インターネットに関わる技術規格や関連政策などの構築に重要な役割を果たしており、今後も引き続き、このような役割を果たしていかなければならない。

Copyright © 2005 Japan Network Information Center. All rights reserved

チュニスアジェンダ第35項 つまり

インターネット問題は技術的側面と公共政策的側面があって、それぞれの関係者で協力しながら進めるべきである。

国家主権は公共政策

民間セクターは技術と経済活動

市民社会は地域社会のインターネット問題

政府間組織は公共政策の調整

国際インターネット団体は技術規格や関連政策

インターネットガバナンス 黎明期と現在

黎明期：

作る人 = 動かす人 =
使う人

- 志向・嗜好が同じ少数の中のコーディネーション
- 役割は未分化
- 関係者は一般からみて「特殊」な存在

現在：

みんなのインターネット
= 社会資本

- 志向・嗜好、文化、環境が異なる大人数の中のコーディネーション
- 役割の細分化、必要とされる役割の増加
- 関係者は一般からみて「必要とされる」存在

インターネットガバナンス 現在から未来へ

インターネット社会のガバナンス

行政・立法, 法律家, 政策研究家
国際機関・国際条約

運営者と利用者間の取り決め

二者間交渉とその連結, IETF/IEPG
JANOG/NANOGを初めとするフォーラム

ICANN, ccTLDs,
NRO, RIRs, NIRs, LIRs

IAB, IESG, IETF, W3C...

インフラストラクチャのガバナンス

• 現在 :

みんなのインターネット
= 社会資本

- 志向・嗜好, 文化, 環境
が異なる大人数の中のコー
ディネーション
- 役割の細分化, 必要とさ
れる役割の増加
- 関係者は一般からみて
必要とされる「存在

インターネットガバナンス 現在から未来へ

インターネット社会のガバナンス

行政・立法, 法律家, 政策研究家
国際機関・国際条約

運営者と利用者間の取り決め

二者間交渉とその連結, IETF/IEPG
JANOG/NANOGを初めとするフォーラム

ICANN, ccTLDs,
NRO, RIRs, NIRs, LIRs

IAB, IESG, IETF, W3C...

インフラストラクチャのガバナンス

拡大する情報社会のガバナンス

政治家, 社会科学研究者, 哲学者
利用者, 教育者。。。

新たなプレイヤー

規模拡大による
運用上の新たな課題

論理資源管理に
関するより精密な要請

新たな技術要素

IPv6, RFID,
ユビキタス技術

拡大する情報社会インフラのガバナンス

まとめ

10年前くらいを振り返って比べてみる

- 10年前くらい
 - 名著「インターネット参加の手引き」
 - 一方的に享受するのではなく、相互扶助機構に参加する、という文脈があった
 - 作り手 = 動かし手 = 使い手 の名残を噛み締めながら当事者意識と責任を持ったインターネットの運用
- 現在
 - みんなの社会資本をつつがなぐ運用する 縁の下の力持ち 』的役割に

WSIS チュニス会合の 意味するところとは

- インターネットが政府の政策課題の一つとなり
外交カードの一つなった
 - 政府には政府の「インターネットの意味」
- 国際的な公共政策議論には、まだ時間が掛かる
 - 米国支配体制をどうするか、2年は短すぎた
 - 発展途上国にまでインターネット諸問題が正しく理解されるには今しばらく時間が必要
- 技術課題、技術政策は民間セクターに託された
 - 今後も信頼に足るネットワーク運営を(今まで成功してきたように)
 - 現実の社会の要請に沿う形で

Q&A

